

平成22年5月17日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19330022

研究課題名（和文） 「E-サポート裁判所」の創造的構築に関する比較法的基礎的研究

研究課題名（英文） Comparative and Fundamental Study on the Creation of "e-Judiciary"

研究代表者

川嶋 四郎 (KAWASHIMA SHIRO)

同志社大学・法学部・教授

研究者番号：70195080

研究代表者の専門分野：民事訴訟法

科研費の分科・細目：民事法学

キーワード：民事訴訟、ICT、民事救済法、司法制度、民事執行、倒産、司法改革、弁護士

1. 研究計画の概要

本研究は、『E-サポート裁判所』の創造的構築に関する比較法的・基礎的研究であり、4年間にわたる研究を通じて、市民が利用しやすく分かりやすく頼りがいのあるIT裁判所としての、「E-サポート裁判所」の具体像を提言することを目的とする。それと同時に、「E-サポート裁判所」の基盤整備のために必要な法原則の解明と、そのための解釈論および立法論的な提言、および、具体的なシステム設計を行うことを、目標とする。

2. 研究の進捗状況

研究実施計画に即して、基本的な資料を収集、分析、研究を継続し、共同研究者である園田准教授・上田准教授とともに、様々な意見交換や各自の研究を並行して行った。

特に、IT裁判所に関する最先端の現場としてのシンガポール最高裁判所で視察・ヒアリング・意見交換をおこない、基礎的な展開の方向性を公表し、「E-サポート裁判所」を実現するためのガイドライン等を作成するとともに、今後の研究公表のための具体的な作業（外国文献の翻訳、民事訴訟過程の具体的なIT化等）を行い、民事訴訟手続の「E-サポート裁判所」モデルを提示すべく、現在、論攷を準備している。

本研究は、これまで日本で行われたことがなかった「民事司法のIT化（ICT化）」としての意義があると考えるので、その具体的な方策について、様々な意見交換を行ってきた。

3. 現在までの達成度

ほぼ予定通りの達成度であるが、今年度は、これまでの総括を行い、まだ、公刊できていない部分については、できるだけ早く公刊したい。

4. 今後の研究の推進方策

今年度は、最終年度であり、これまでの研究成果をまとめて公刊する準備を行いたい。そのために、比較法的研究をもとに、裁判実務の研究などにも、力を入れたい。

また、裁判所の研究会や、アジア法研究会および司法アクセス研究会で、成果報告を行い、より多くの学会メンバーおよび法曹（弁護士、裁判官）からの意見を聴取して、具体的な手続提言につなげていきたい。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計14件）

①上田竹志「民事訴訟法における「行為規範と評価規範」の意義」民事研修（みんけん）628号11-28頁 2010年

②川嶋四郎「近時の最高裁判例に見る「救済志向」の一事例」民事研修（みんけん）628号2-21頁 2009年

③川嶋四郎「政務調査費関係文書と民事訴訟法上の文書提出命令制度・覚書」同志社法学335号219-254頁 2009年

④川嶋四郎「『E-サポート裁判所』システムの創造的構築のための基礎理論—『IT活用』による『正義へのユビキタス・アクセス』

構想」法学セミナー653号38-39頁
2009年

⑤川嶋四郎「略式訴訟の争点—『簡易救済手続』の現状と課題」伊藤眞＝山本和彦編『民事訴訟法の争点』270-273頁 2009年

⑥川嶋四郎「民事訴訟における報道関係者の『取材源黙秘権』に関する覚書」同志社法学332-II号833-868頁 2009年

⑦川嶋四郎「労働委員会における紛争解決手続の基礎的課題」日本労働研究雑誌581号55-68頁 2008年

⑧川嶋四郎「20世紀前半におけるドイツ・イミッション手続過程の一側面」『民事司法の法理と政策(上)〔小島武司先生古稀記念論文集〕』331-362頁 商事法務 2008年

⑨川嶋四郎「破産法における情報開示」山本克己＝山本和彦＝瀬戸英雄編『新破産法の理論と実務』27-35頁 判例タイムズ社 2008年

⑩川嶋四郎「『アメリカにおけるリーガル・クリニックの新展開』についての覚書」九州法学会会報2007年40-46頁 2008年

⑪上田竹志「当事者主義的個別手続形成における動態性の問題」『民事紛争と手続理論の現在』20-42頁 法律文化社 2008年

⑫園田賢治「判決による不意打ちとその救済に関する一試論」『民事紛争と手続理論の現在』239-259頁 法律文化社 2008年

⑬川嶋四郎「判例を通じた法創造の一局面」『民事紛争と手続理論の現在』461-486頁 法律文化社 2008年

⑭川嶋四郎「アメリカにおけるリーガル・クリニックの新展開」法政研究(九州大学)74巻2号321-350頁 2007年

〔学会発表〕(計2件)

①川嶋四郎「日本における『裁判と言語』— 司法におけるアクセス、プロセス、サクセスの鍵としての言語」言語処理学会 平成21年3月4日 鳥取大学

②川嶋四郎「ADRと救済」仲裁・ADR法学会 平成21年6月4日 早稲田大学

〔図書〕(計4件)

①川嶋四郎『日本人と裁判』200頁 法律文化社 2010年(掲載確定)

②川嶋四郎『アメリカ・ロースクール教育論考』330頁 弘文堂 2009年

③佐藤鉄男＝和田吉弘＝日比野泰久＝川嶋四郎＝松村和徳『民事手続法入門〔第3版〕』20-72頁、137-151頁 有斐閣 2009年

④木佐茂男＝宮澤節生＝佐藤鉄男＝川嶋四郎＝水谷規男＝上石圭一『テキストブック現代司法〔第5版〕』16-28頁、52-60頁、278-279頁 日本評論社 2009年